

都市ガス事業者として初めて、Shore to Ship 方式による船舶向け LNG 燃料供給事業を開始
～ 船舶向け LNG 燃料供給事業を通じた、海運業界の低・脱炭素化への貢献 ～

2025 年 4 月 21 日
大阪ガス株式会社

大阪ガス株式会社（代表取締役社長：藤原 正隆）は、Shore to Ship 方式^{※1}による船舶向け LNG 燃料の供給事業を、都市ガス事業者として初めて開始しました。

本日、大阪ガス泉北製造所第二工場（大阪府高石市）において、上記燃料供給事業における第一隻目として、株式会社商船三井が運航する JFE スチール株式会社向けの LNG 燃料鉄鋼原料船「VERDE HERALDO（読み：ヴェルデ エラルド）」に LNG 燃料の供給を実施しました。海運業界の低・脱炭素化に向けたトランジション期において、環境負荷の低い LNG 燃料の供給拡大を推進していきます。

昨今、世界的な脱炭素化の潮流や国際海事機関による温室効果ガス削減目標^{※2}策定を受け、重油に代わり LNG を船舶燃料として使用する、LNG 燃料船の隻数が増加しています。LNG 燃料船は、重油を燃料とした場合に比べ CO₂ 排出量を削減することができますが、現状、日本では LNG 燃料を供給する設備が限られているという課題がありました。

当社は、2019 年より Truck to Ship 方式^{※3}での船舶向け LNG 燃料供給をすでに実施しており、今回の Shore to Ship 方式による供給事業開始とあわせ、2 つの方式での LNG 燃料供給が可能となりました。加えて、2026 年度から開始予定^{※4}の LNG バンカリング船での Ship to Ship 方式^{※5}による LNG 燃料供給により、主要な 3 方式全ての LNG 燃料供給が可能となり、安定かつ柔軟な LNG 燃料供給に寄与します。

将来的には、船舶燃料として供給する LNG を e-methane（以下、e-メタン）に置き換えることで、シームレスな船舶燃料の脱炭素化に繋げていくことが可能となります。

Daigas グループは、今後も船舶向けへの LNG 燃料供給を拡大するとともに、2025 年 2 月に発表した「Daigas グループ エネルギートランジション 2050」に基づき、e-メタンを社会実装し、船舶燃料向けへの供給を推進することで、海運業界の低・脱炭素化の実現に貢献してまいります。

※1：岸壁・棧橋に係留中の LNG 燃料船に対して、陸上 LNG ターミナルなどから LNG を供給する方式。

※2：2050 年までに、温室効果ガス排出ネットゼロとする目標。

※3：岸壁に係留中の LNG 燃料船に対して、岸壁に駐車した LNG タンクローリーから LNG を供給する方式。当社ではグループ会社である Daigas エナジー株式会社を通して、株式会社商船三井のグループ会社である日本栄船株式会社が運航する LNG 燃料タグボート「いしん」に Truck to Ship 方式で LNG 燃料を供給しています。

※4：2023 年 6 月 27 日発表「大阪湾・瀬戸内エリアにおける Ship to Ship 方式による船舶向け LNG 燃料供給の事業化決定」

https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2023/1765309_54087.html

※5：岸壁に係留中もしくは錨地に停泊中の LNG 燃料船に対して、バンカリング船が接舷して LNG を供給する方式。当社が Ship to Ship 方式での LNG 燃料供給に使用する予定のバンカリング船は国土交通省の令和 5 年度 LNG バンカリング拠点形成事業に採択され、下ノ江（したのえ）造船株式会社の本社工場（大分県）にて建造中です。

■ Shore to Ship 方式での LNG 燃料供給の様子



■ LNG バンカリングの方式

